

平成24年度第1回人材支援委員会 議事概要

- 日時 平成24年9月21日(金) 13:30~15:00
■場所 文部科学省・研究交流センター 2階 第1会議室
■出席者 委員長：二外村 森
(敬称略) 委員：井上勲、黒澤景、相澤高史、西嶋昭生、水町功子、秋永広幸、田村正則
事務局：菊池正宏

■議事

- 1 つくば国際戦略総合特区の現状について
事務局から説明。
- 2 「外国人研究者受入についての調査」報告書について
J I S T E Cから説明。
- 3 シニア・エキスパート制度の現況について
つくば市から説明。
- 4 海外調査について
今回、海外調査事業について、忌憚のないご意見を頂戴しました。

(委員の主な意見)

- ・シンガポールと日本とは全然違うので、訪問しても余り意味がないと思う。実際に日本にとって意味のある国に調査に行った方が良いと思う。予算的にアジアしかないと思う。
- ・タイのサイエンスシティの女性研究者が、比較的元気にやっている。理由は、タイは未だ核家族になっていないので、赤ちゃんを普通に家の人(親)に預け働けるからである。
- ・日韓問題の時期がずれば、ソウル大学が良いと思う。アジアでも相当早くに全科目を英語にしている。
- ・イノベーション人材の視点で言えば、韓国は戦略的な重点施策としてやってるなど凄く感じる。韓国では、一度大学を卒業した若手を再教育して、プロジェクトをコーディネートする人又はマネージャーに仕立て上げている。日本ではわりと定年になった先生にやらせているが、韓国は20代後半にやらせているので、いろいろな事をよく知っている。
- ・J I C Aや各省庁など、いろいろな機関で同じような調査をやっているので、つくばの人材育成として何の目的で何を調査に行くのかがあって、それから訪問先を選ぶのではないのでしょうか。
- ・J I C Aは実績が圧倒的に多いので、人間開発部からの情報を見て、つくばは何をやるのかを考えると良いと思う。
- ・J S T / M E X T の e A S I A 事業を活用したらどうか。つくばの機関が、強力な連携を採っている機関のある国を視察すれば良いと思う。例えば、アクションプランが出てきたときに本当にやれると思う。既にスタートしている取組みがあれば、アクションプランが生きるのではないのでしょうか。
- ・韓国は特に女性が少ない中、女性研究者の割合が日本より多いことに驚いた。これからの日本は外国人研究者と日本の女性研究者が重要なので、そういう考え方からすると、タイとか韓国を調べる必要があるのかもしれない。

(結論)

- ・海外調査の視察先については、委員の意見を踏まえ素案を作り、次回の委員会で検討することとする。